

2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



2025年2月7日

上場会社名 東洋合成工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4970 URL <http://www.toyogosei.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 有仁
 問合せ先責任者(役職名) 経理財務部長 (氏名) 篠崎 史朗 (TEL) 03-5822-6170
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の業績(2024年4月1日~2024年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	29,073	25.9	3,067	16.7	3,103	22.7	2,087	21.1
2024年3月期第3四半期	23,095	△10.3	2,628	△31.1	2,529	△37.2	1,724	△37.2
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2025年3月期第3四半期	263.00		—					
2024年3月期第3四半期	217.26		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	66,260	23,608	35.6
2024年3月期	59,517	21,825	36.7

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 23,608百万円 2024年3月期 21,825百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2025年3月期	—	20.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	38,200	19.5	3,600	2.5	3,500	3.1	2,500	4.3	314.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手できる情報に基づき可能な範囲で合理的に算定しております。実際の業績等は今後の世界情勢等により異なる可能性があり、修正の必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年3月期3Q	8,143,390株	2024年3月期	8,143,390株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2025年3月期3Q	206,564株	2024年3月期	206,564株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2025年3月期3Q	7,936,826株	2024年3月期3Q	7,936,877株
------------	------------	------------	------------

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士

又は監査法人によるレビュー

: 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(表示方法の変更)	7
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(収益認識関係)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期における海外経済は、勢いには欠けるものの総じてみれば緩やかな成長が続きました。米国では、個人消費に支えられ景気は底堅く推移しました。欧州では引き続き製造業に弱さが見られましたが、個人消費の持ち直しにより、緩やかな回復となりました。また、中国では国内需要の低迷により景気停滞が続きました。

わが国経済は、物価高により個人消費は依然として停滞感が見られましたが、円安やインバウンド需要を背景に企業業績が好調に推移し、緩やかな回復となりました。しかしながら、米国新政権による今後の政策動向などの世界情勢や急激な為替変動など、先行き不透明な状況が続いております。

当社事業の主要市場である電子材料業界は、車載や産業機器等の汎用半導体向け材料は需要回復に遅れが生じているものの、AI関連投資の需要拡大が継続し、先端半導体向け材料は好調に推移しました。

このような状況のなか、当社は、2023年3月期からスタートした5ヵ年の中期経営計画「Beyond500」に基づき、2024年5月には感光材開発分析棟が完成し、10月には先端分野向け材料の大規模な新規生産設備も完成しました。これらの設備投資により製造技術力・分析体制の強化とともに、最先端品質を満たす安定供給体制が整いました。今後はこのような設備も活用し、需要拡大が期待される半導体市場への供給力強化を推進してまいります。

当第3四半期においては、先端半導体向け材料を中心に販売が増加したことから、売上高は29,073百万円（前年同期比+5,978百万円、+25.9%）と増加しました。利益面につきましては、新設備の完成や人員増等、大幅な固定費増があったものの、売上増加により営業利益は3,067百万円（前年同期比+438百万円、+16.7%）、経常利益は3,103百万円（前年同期比+573百万円、+22.7%）、四半期純利益は2,087百万円（前年同期比+363百万円、+21.1%）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(感光性材料事業)

半導体向け材料は、旺盛なAI関連投資を背景に先端分野の需要が増加し、当社製品の販売も拡大しました。ディスプレイ向け材料は、中国を中心にパネル生産が一定レベルで保たれたことから、当社製品の販売も堅調に推移しました。

この結果、感光性材料事業の売上高は17,675百万円（前年同期比+3,899百万円、+28.3%）、営業利益は感光材開発分析棟、先端分野向け材料の新規生産設備の完成や人員増等により、減価償却費等の固定費が大幅に増加したことから1,421百万円（前年同期比△289百万円、△16.9%）となりました。

(化成品事業)

電子材料関連製品は、半導体向け需要の増加や電子部品向けの緩やかな回復を背景に、高純度溶剤の販売が好調に推移し、前年同期比で売上は増加しました。

香料材料関連製品は、トイレタリー向け香料の需要回復により海外販売が好調に推移したことから、前年同期比では売上が増加しました。

タンクターミナル関連は、基礎化学品需要の弱さから荷動きの低迷が継続しているものの、旺盛なタンク需要によりタンク契約率は高水準で推移しました。

この結果、化成品事業の売上高は11,398百万円（前年同期比+2,078百万円、+22.3%）、営業利益は1,645百万円（前年同期比+728百万円、+79.3%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

財政状態は、前事業年度末対比で次のとおりであります。

当第3四半期会計期間末における総資産は66,260百万円となり、前事業年度末比6,742百万円の増加となりました。

流動資産は24,620百万円で、前事業年度末比1,937百万円の増加となりました。これは主に受取手形及び売掛金848百万円の増加、商品及び製品589百万円の増加などによるものであります。

固定資産は41,639百万円で、前事業年度末比4,805百万円の増加となりました。これは主に取得による増加7,525百万円、減価償却による減少2,584百万円によるものであります。

流動負債は26,478百万円で、前事業年度末比5,961百万円の増加となりました。これは主に短期借入金4,400百万円の増加、支払手形及び買掛金2,009百万円の増加によるものであります。

固定負債は16,172百万円で、前事業年度末比1,002百万円の減少となりました。これは主に、長期借入金1,225百万円の減少によるものであります。

純資産合計は23,608百万円で、前事業年度末比1,783百万円の増加となりました。これは主に四半期純利益2,087百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の通期の業績予想につきましては、2024年8月9日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,645	3,581
受取手形及び売掛金	7,222	8,071
商品及び製品	7,662	8,251
仕掛品	424	120
原材料及び貯蔵品	2,251	2,496
その他	1,484	2,107
貸倒引当金	△9	△8
流動資産合計	22,682	24,620
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,507	16,583
機械装置及び運搬具（純額）	6,585	14,379
土地	4,912	4,912
建設仮勘定	11,042	851
その他（純額）	814	1,332
有形固定資産合計	33,862	38,060
無形固定資産		
その他	1,579	2,275
無形固定資産合計	1,579	2,275
投資その他の資産		
その他	1,393	1,304
投資その他の資産合計	1,393	1,304
固定資産合計	36,834	41,639
資産合計	59,517	66,260
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,009	6,018
短期借入金	2,300	6,700
1年内返済予定の長期借入金	5,297	5,198
設備関係未払金	5,762	5,370
未払法人税等	635	356
賞与引当金	841	410
その他の引当金	50	24
その他	1,620	2,400
流動負債合計	20,516	26,478
固定負債		
長期借入金	14,411	13,185
退職給付引当金	2,025	2,111
役員退職慰労引当金	104	113
その他	633	762
固定負債合計	17,174	16,172
負債合計	37,691	42,651

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,618	1,618
資本剰余金	1,541	1,541
利益剰余金	18,567	20,337
自己株式	△92	△92
株主資本合計	21,635	23,405
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	190	203
評価・換算差額等合計	190	203
純資産合計	21,825	23,608
負債純資産合計	59,517	66,260

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)
売上高	23,095	29,073
売上原価	17,439	22,291
売上総利益	5,656	6,782
販売費及び一般管理費	3,027	3,715
営業利益	2,628	3,067
営業外収益		
受取利息及び配当金	10	13
為替差益	—	21
受取家賃	15	15
受取保険金	61	1
生命保険配当金	12	12
補助金収入	4	77
受取補償金	—	39
その他	14	27
営業外収益合計	118	208
営業外費用		
支払利息	89	148
為替差損	110	—
その他	16	23
営業外費用合計	216	172
経常利益	2,529	3,103
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	27	85
特別損失合計	27	85
税引前四半期純利益	2,502	3,017
法人税、住民税及び事業税	626	828
法人税等調整額	151	101
法人税等合計	778	930
四半期純利益	1,724	2,087

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前第3四半期累計期間において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取利息」および「受取配当金」は、重要性が乏しいことから、第1四半期会計期間より「受取利息及び配当金」として記載することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期累計期間の四半期財務諸表の組替えを行っております。

前第3四半期累計期間において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「補助金収入」は、金額的重要性が増したため、第1四半期会計期間より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期累計期間の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期累計期間の四半期損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた18百万円は、「補助金収入」4百万円、「その他」14百万円として組替えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益 計算書計上額 (注)
	感光性材料事業	化成品事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	13,775	9,320	23,095	—	23,095
外部顧客への売上高	13,775	9,320	23,095	—	23,095
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	252	252	△252	—
計	13,775	9,572	23,348	△252	23,095
セグメント利益	1,710	917	2,628	—	2,628

(注) セグメント利益又は損失は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益 計算書計上額 (注)
	感光性材料事業	化成品事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	17,675	11,398	29,073	—	29,073
外部顧客への売上高	17,675	11,398	29,073	—	29,073
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	298	298	△298	—
計	17,675	11,697	29,372	△298	29,073
セグメント利益	1,421	1,645	3,067	—	3,067

(注) セグメント利益又は損失は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	2,173百万円	2,584百万円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。